

伊勢崎神社が織りなす 地域との新たな絆

かつて地域コミュニティの中心だった神社・寺社は、まちや人々の暮らしの変化とともに、その役割が変わりつつある。伊勢崎の鎮守社として、積極的に地域との交流を図りながら、地元文化の発信に努める伊勢崎神社の姿を取材した。

鎌倉時代に創建された 伊勢崎の鎮守

創建は1213年。伊勢崎神社の歴史は鎌倉時代にまで遡る。伊勢崎市が編集した『伊勢崎の社寺建築』によれば、1329年にいまの伊勢崎市本町に遷座し、伊勢崎藩（現伊勢崎市）の総鎮守となった。1637年には、上州国厩橋藩（現前橋市）の第三代藩主であり、江戸幕府老中と大老を務めた酒井忠清の父である忠行が、神前へ供物を捧げる奉幣式を執行。以来、代々城主が修理を重ねてきたとある。

その威勢の名残だろうか、神社本殿の全ての壁面には、見事な彫刻が残る。1935（昭和10）年に拝殿が建てられたため、正面の壁

を見られないが、残る3面にはいずれも立体的で精緻な彫刻が隙間なく刻まれている。

手掛けたのは、江戸時代後期に活躍した二代目・石原常八ら3人の彫刻師。なかでも常八は名工の誉れ高く、妻沼聖天山歎喜院貴惣門（埼玉県熊谷市／国指定重要文化財）や雷電神社本殿（板倉町）の彫刻を施したことも知られる。

「壁から柱まで、随所に彫刻がちりばめられている神社は、全国でも類を見ないでしょう。それぞれが細かいのも珍しいですね」というのは、伊勢崎神社の若き彌宜、齋藤宏平さんだ。

神社にはもう一つ、珍しいものがある。拝殿に奉納された飛行機の本製のプロペラだ。

伊勢崎神社拝殿。正面に見える鈴のそばに、プロペラが奉納されている。拝殿の裏手が本殿



▶本殿側面に施された彫刻。左端に瀧とひょうたんを持つ人物があり、「養老の瀧」の一場面と思われる。周囲には龍や鳳凰、獅子、鶴などが、柱のめだたい動物を意味する紗綾形（さやがた）文様が隙間なく刻まれている

▶中島飛行機（現富士重工株式会社）が奉納した木製のプロペラ



▲奉納されたプロペラを模し、航空安全、渡航安全を祈願して作られたお守り ▶伊勢崎銘仙を装丁に使った朱印帳。銘仙の鮮やかな色彩やポップな柄は、和小白物にするによく映える



（写真上）毎年1月11日には上州焼き饅祭の会場となる。境内でビッグバンドジャズの演奏も（写真下）秋のせさぎ燈華会では、境内でビッグバンドジャズの演奏も

を祈願して中島飛行機から奉納されました。日中戦争で実際に飛んだ、九〇式三号水上偵察機だと聞いています」

イベントの会場として 地域の人々が集まる場に

伊勢崎神社の主祭神は保食神（うけもちのかみ）。生きるために必要な食べ物や暮らしを支える産業を司る神だ。農業や伊勢崎銘仙で栄えた伊勢崎市らしいといえよう。しかし、田畑の豊作を祈願し、近隣の会合を開く場所だった神社も、市民の生活が多様化するにつれ、その機会を減らしていった。

かつてのように、地域の人々のための公的な場所でありたい。そう願う、伊勢崎神社は10年以上前



伊勢崎神社 彌宜 齋藤宏平さん

から地域イベントへの会場提供を始めた。それが秋に行われる、いせさき燈華会内のジャズ演奏と、1月11日の上州焼き饅祭だ。神社とジャズは一見珍しい取り合わせに思える。しかし齋藤さんは、「古くから舞や音楽が、神様に奉納されていますよ」と笑顔を見せる。「神様にも地域の人にも、楽しんでいただきたいという思いから、会場としてご協力しています」。

一方で、上州焼き饅祭では神事が執り行われる。この祭は、焼きまんじゅうを使ったまちおこしができないかと、2003（平成15）年に、いせさき焼きまんじゅう愛好会が立ち上げたもの。巨大な焼きまんじゅうが用意され、宮司が「福まん神事」を行ったあと、境内で盛大に焼かれる。まんじゅうは来場者に福分けされ、多い時は1400人以上の観客が訪れる人気祭りだ。

「宮司は、ふくふく膨らむ焼きまんじゅうのように、この1年の皆さんの幸せも膨らみますように」と祝詞をあげます。まちおこ

しいイベントがきっかけで、地域の皆さんのための新しい神事が生まれました。これはとても嬉しいですね」

全国へのPRを目的に 伊勢崎銘仙の朱印帳を制作

2016年、同神社はまた新しい挑戦をした。インターネットで出資者を募るクラウドファンディングを利用した朱印帳作りだ。装丁には伊勢崎銘仙を使用した。発案のきっかけは、小学生向けの職業体験。そこで伊勢崎銘仙を取り上げるにあたってじっくり学んだとき、地元の貴重な絹織物文化でありながら、後継者がおらず失われつつあるのが惜しいと痛感した。あるときふと、これを朱印帳に使ってみてはと思いついたのだ。

「クラウドファンディングを使った目的は、ネットを介した全国PRです。伊勢崎銘仙を後世に残すために、県外の人にも興味を持つてもらいたい。そこからファンを獲得し、新たな需要を生み出す必要があると思いました」と齋藤さん。

正絹で織られた伊勢崎銘仙に負けないよう、紙も質の良い和紙にして、購入者の満足度を高めた。「ご朱印帳」や「伊勢崎神社」の文字はどこにもない。それがあ

と、せっかくの伊勢崎銘仙の良い雰囲気損なわれてしまうと考えたからだ。

ネットで募集期間を40日間、目標金額を30万円に設定したところ、多くの人の興味を引き、10日で目標金額をクリア。最終的に102人の出資者と46万5000円が集まった。半分以上の人が伊勢崎銘仙を知らず、男性からの応募も多かったそうだ。初めての試みは大成功に終わった。

今後も県外に向けた地域文化の発信に力を入れたいと、意欲を燃やす齋藤さん。将来は、伊勢崎駅から神社までの間に、銘仙をテーマにした大きな通りを作れたらと夢を語る。

「途中にいせさき明治館もあり、きつとレトロで面白いものになるはずですよ」

歴史を守り、受け継ぎながら発信する。伊勢崎神社を舞台に、新しい伊勢崎の物語がいま、少しずつ織られ始めている。

Information

◎上州焼き饅祭

- 開催日時 2017年1月11日(水) 14:00～
- 場所 伊勢崎神社

福分けの焼きまんじゅうはなくなり次第終了となる。

伊勢崎神社

伊勢崎市本町21-1
TEL.0270-25-0542

